

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1274000213		
法人名	特定非営利活動法人おたがいさま		
事業所名	グループホームおたがいさま		
所在地	千葉県富里市御料694番地3		
自己評価作成日	平成23年3月21日	評価結果市町村受理日	平成23年5月2日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo.chibakenshakyo.com/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 日本ビジネスシステム		
所在地	千葉県市川市富浜3-8-8		
訪問調査日	平成23年3月31日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

各ユニット6人。定員12名のグループホームです。2階建てのつくりになっていて各階ごとに生活スタイルが異なりますが、ゆったりと、のんびりとできる限り本人の思いを実現できるように日々工夫を心掛けています。当事業所にも世代交代があり職員・入居者ともに今自分たちができること試行錯誤で取り組んでいます。開設以来の入居者も何名か生活しています。開設したと比べるとそれだけ年を重ねましたが、その人ができること、残存能力はなにか皆で考えながら日々工夫に取り組んでいます。普段無表情の人が一瞬でも笑顔を見せた時の喜び、その人の隠された能力を知った時の驚き、できる限り穏やかに楽しい生活が送れるよう支援をしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホームおたがいさま」は名前の通り、入居者・職員・地域が共に寄り添いながら生活する事を主眼とする理念を掲げ、日々サービスの実践に取り組んでいる。入居者らしい本人本位のケアを心掛け、入居者の習慣・希望・身体状況・季節等を考慮しながら、一人ひとりが外出を楽しめるよう支援しており、個別支援が出来る様に人員配置に配慮している。また、入居者と職員の外出・行事等の写真がアルバムに整理されており、楽しみにの共有や生活活性化に繋がっている。施設の実践経験を活かし、様々な講習に講師を派遣しており、地域の高齢者の介護サービスの推進に取り組んでいる。

サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求め ていることをよく聴いており、信頼関係ができてい る (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキ-) + (Enterキ-)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	3つの理念を掲げ、パンフレットなどに記載している。改めて施設内研修を行っていないため最近入職した職員等には、浸透していないため再度研修を設けたい	職員・入居者・地域への意義や役割を主眼とした法人独自の理念を掲げ、玄関に掲示していると共に、入職時に配布しており、全職員にて理念を共有している。また、パンフレットを協力病院に置かせてもらう等、理念の地域浸透も図っている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	年に数回地域のボーイスカウトや夏祭りなどに作家している。また理美容は利用者のなじみの店に行っている。スーパーや公園などにも買い物にしている。	散歩や買い物の際、近隣住民とは挨拶をする関係が築かれている。自治会・商店会に加入しており、行事には積極的に参加し、地域との交流が盛んに行なわれている。また、専門学校生の実習の受け入れや研修会への講師派遣等、地域貢献にも努めている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域行事に出来るだけ参加したり、地域の商店街に加盟。町内会にも属している。地元からの理解もある。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	概ね2ヶ月に一度利用者の状況や活動報告を行っているその内容を職員会議で共有している。	市職員・民生委員・家族・施設職員を構成員として、2ヶ月に1回、運営推進会議を開催している。会議では施設の活動報告・入居の状況報告・質疑応答を行い、施設理解促進に努めている。また、意見・情報交換を行い、サービスの質の向上に繋げている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	施設の空き状況や地域防災など、日頃から連携をとっている。	市に対しては業務全般の報告や相談等随時行っており、市との連携を図っている。市職員による巡回の際には、意見・情報交換等が行われ問題解決に向け、共に取り組む関係が築かれている。市役所にパンフレットを置かせてもらい、市と共同でPRを行なうと共に、市の委託を受け講師を派遣する等、市との協力体制が構築されている。	

【千葉県】グループホーム おたがいさま

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止宣言をしている。日頃より利用者の自由を考慮し行動を抑制しないように心掛けている。人の出入りがわからないので、玄関には、チャイムが付いている。	身体拘束排除における施設方針やマニュアルを整備していると共に、研修も実施しており、全職員が身体拘束排除における意義を理解して、ケアに反映させている。外部研修の際に、参加者がレポートにまとめ、全職員が閲覧しており、周知・理解促進を図っている。日中は玄関の施錠はせず、入居者の自由な生活を支援している。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	今年度は、施設内研修は行っていないが、ケアの実践の中でお互いに注意を払い防止している。		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	今年度施設内研修は行っていない。そのため制度を理解していない職員もいる。個々の利用者を尊重する介護に努めながら、必要に応じて活用できるように意識を高めていく。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に説明をし同意を得ているも、不明な点などがあればその都度説明をするようにしている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族面会時に日常の様子を伝える。要望などは、リーダー日誌や申し送りにて周知している。必要に応じて会議を活用している。	苦情・相談窓口を設置していると共に、家族の面会時や電話連絡時に家族の意見・要望を確認している。また、運営推進会議・家族会・アンケート等を活用し、意見・要望の収集に努めている。挙がった意見・要望においては、日誌や申し送り等で周知・検討し、適切な改善に取り組んでいる。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	不定期ではあるが、運営等について介護を開催している。	全体会議等で職員からの意見・提案を確認している。管理者が日常の業務の中で職員とコミュニケーションを取りながら、意見・要望・思いを言い易いように配慮し、働きやすく意見が反映され易い職場作りに努めている。必要に応じて管理者が理事長に報告し、理事長が個別に対応する等、意見・要望を運営に取り入れる体制作りに取り組んでいる。	外部研修においては、レポートの回覧を通じて、研修内容の共有を図っていると共に、講師派遣を行う等、様々な取り組みが行われている。今後は、継続してサービスの質の向上に向け、取り組む他、内部研修の充実を図り、適切な人材育成及び向上心を持って働ける職場環境の整備を望みます。

【千葉県】グループホーム おたがいさま

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		<p>就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>就業規則に基づき給与水準を決めている。最近の社会的傾向を鑑みると喫煙に関するマナー分煙等への配慮が出来ていない</p>		
13		<p>職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>施設外研修で学んだことを研修報告等とおして職員間で共有している。施設内研修という形が時間枠で摂れていない為今後設けていきたい</p>		
14		<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>今年度交換研修等は行っていないため他の施設と調整し行っていきたい。毎月介護相談員が訪問してくれる。必要に応じて近隣の出来ごとなど情報交換している。また運営推進会議等も活用して質の向上に努めている</p>		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入所一カ月は特に注意して対応している。日頃の会話や行動など些細なことに注意を払い安心して生活できるよう配慮している。</p>		
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>ご家族の気持ちを考えるとこちらでの生活の様子を丁寧に説明し、安心していただけるよう配慮している。必要に応じて連絡を取るようになっている。</p>		
17		<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>アセスメントを活用して状況を把握優先順位を整理しその時の状況に合わせた介護を検討している</p>		
18		<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>ご本人の個性を大切に出来ること(お菓子作りや身の回りの掃除など)役割分担を担っていただくようにしている</p>		
19		<p>本人と共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>毎年、利用者家族が集まれる家族会を開催している。日頃なかなか一堂に集まることが出来ない為とても良い企画となり家族からも好評を得ている。日々の生活の様子については、訪問時に要望等を確認している。</p>		

【千葉県】グループホーム おたがいさま

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>ご本人の知人や近所の方が訪問にくる。いつでも気軽に立ち寄れるように門戸は開けてある。時にはその方と外出されることもある。職員も個別に担当を設けて、入居者の代弁者となれるよう努めている。</p>	<p>入居者の希望や状況に応じて、馴染みの場所への外出等、臨機応変に支援している。また、友人等の来訪を受け付け、馴染みの人との関係継続の支援にも努めている。他にも、馴染みの場所への外出に職員が個別に対応しており、より柔軟な支援の提供に努めている。</p>	
21		<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>時には利用者同士その場の雰囲気や重くなる日もある、そんな時は気分転換で外出や話を個別できく対応を行い、良好な関係が継続できるように心がけている</p>		
22		<p>関係を断ち切らない取組み</p> <p>サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>サービスが終了した後も、気軽にあいさつをしたり、近所で困っているお年寄りがあると連絡や事業所をすすめてくれる方がいる。</p>		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入居者一人ひとりの生活歴を各担当者が把握している。意思表示可能な方は、出来る範囲で、意思表示できない方でも家族の思いや生活歴から推測し支援している。</p>	<p>契約時に本人・家族から意向・身体状況・生活歴等を確認し、記録している。必要に応じて主治医からの意見書や他の事業所から情報提供を受ける等、より詳しい情報収集に努めている。入居後は日々の会話や観察の中から意向を汲み取り、本人本位の支援に努めている。挙がった意向等は会議を通じて全職員が周知し、常に新しい情報共有に取り組んでいる。</p>	
24		<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>生活歴や家族、知人等これまでに関わってきた方々から情報をいただき出来る範囲で行っている。例えば、理美容室などなじみの場所へ行くなど</p>		
25		<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている</p>	<p>一人一人の生活スタイルに合わせて無理のない範囲で過ごしていただけるよう配慮している。日頃の様子や会話など記録に残し対応している。日常生活上変化があれば、必要に応じて連携を取る。医療機関や家族・職員間など</p>		

【千葉県】グループホーム おたがいさま

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の様子を記録に残すことで現在の様子を把握、会議の場を通じて介護の方向性について話し合い、意見やアイデアを出し合っている。	入居者・家族の意向を基に、生活状況の記録を活用しながら、職員会議等で意見・情報交換を行い、介護計画を作成している。定期的に介護計画の評価・目標達成の確認を行い、必要に応じて見直しを行っている。入居者の状況に変化が生じた場合には、入居者の個人記録を参考にし、現状に即した介護計画作成に努めている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日誌を活用し些細なことでも記述することにより職員が共有している。特に大事と思われることについてはリーダー日誌も活用している。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	可能な範囲の中でその人に沿った工夫を心掛けて支援するように取り組んでいる		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所に買い物に行ったり散歩に行ったり楽しみを持って生活できるように生活歴など情報を皆で共有し支援している		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携の病院はもとより、入居前からのかかりつけ医などに定期的に受診している。変化等あればその都度支持を仰ぎ対応している	希望する医療機関への受診が可能となり、必要に応じて職員の付添い支援も行なわれている。協力病院とは医療全般においての連携が図られており、適切な医療支援が行なわれていると共に、急変時・緊急時における協力体制が整備されている。非常勤の看護職員による適切な健康管理・服薬管理が行われている他、24時間連絡が取ることが可能となり、緊急時における相談・助言・対応も行なっている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	急変時などを除き心配なことがあれば看護師とは密に連携・情報を共有している。夜間など看護師不在でもオンコール指示を仰げる体制を取っている。		

【千葉県】グループホーム おたがいさま

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院前の健康状態など必要な情報をまとめ病院や家族に報告退院後ホームでの生活が継続できるようであれば留意事項など予後の対応を確認している。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	会議等を通してホームでの対応が可能であるか、家族や本人の思いを含めて話し合いをしている。ホームのできる範囲でその時の本人の様子を記録しその都度家族医療機関に報告している	重度化・終末期における指針や対応方法を家族に説明し、同意書を交わしている。必要に応じて、家族とは重度化した際の対応方法の説明や意向確認を行うと共に、医療機関と連携を図り、意向に沿った、適切な対応が取れるよう協力体制の整備に取り組んでいる。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時に備えてマニュアルは作成されているが、いざという時にはあわててしまい日ごころからの訓練等必要がある。今後の課題である。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な訓練を行っているが、マニュアルどおり職員一人一人が素早く動けるかが今後の課題地域との支援協力体制はとれている。	災害時におけるマニュアル・連絡網等が整備されていると共に、火災報知器・スプリンクラー等を設置し、非常災害時に備えている。年2回、消防避難訓練を実施している。消防訓練では夜間を想定した訓練を実施し、人の配置を考慮する等、緊急災害時における対応の周知徹底に努めている。また、自治会・商店会等を含めた近隣住民との協力体制の構築を図っている。	
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉の使い方一つで個人のとらえ方が変わってしまう人生の先輩という念を持ちながらその都度の状況によって対応している。	マニュアルを活用し、全職員が入居者の言葉遣いや介助方法に細心の注意を払い、入居者のプライバシーを損ねないよう対応している。個人情報の取り扱い説明文を施設内随所に掲示していると共に、個人書類においては、所定の場所に保管し、個人情報保護に努めている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いを一番に考え、できるだけ思い(希望)を聞くことから始める。選択肢があるような事柄は一緒に考えながら本人に決めていただく		

【千葉県】グループホーム おたがいさま

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	時に優先事項を考えると職員の都合によることもあるが、職員間で話し合いの場を持ちできる限り本人がやりたいこと、生活スタイルが反映されるように少しずつ見直しをしている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人のお気に入りの衣類を着ていただいたり美容室に行きたいという気持ちにはできる限り対応している。プチおしゃれ程度		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事メニューを一緒に考えたり簡単な盛り付けや調理を手伝っていただく	朝食・夕食は業者による食材を利用しており、昼食やおやつは手作りをしている。入居者と職員が準備や調理・片付け等を共同で行い、自立支援に向けた支援をしている。また、嚥下能力低下の入居者には、職員がペースト状食やきざみ食等の工夫を行い、身体能力に合せた食事提供がなされており、美味しい食事と楽しい時間になるように配慮している。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	朝夕はカロリー計算された食事を提供昼食においても見た目の盛り付けやバランスを考え職員順番に作っている食事量や水分量などその都度確認し、記録を残している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	生活しているほとんどの入居者は入れ歯であるが、中には生歯が残っている方もいる。歯ブラシや歯磨きティッシュを食後毎に実施		
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	本人の能力に応じてアセスメントを実施日中においては可能な限りトイレ誘導排泄個々人に合わせたパターンで支援している	排泄チェックリストを活用しながら、一人ひとりの排泄パターンを把握しており、声掛け・トイレ誘導に工夫をし、おむつ・パットの使用頻度の軽減を図っている。夜間においては、入居者の状態に合わせてポータブルトイレ等を利用し、排泄の自立支援に取り組んでいる	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一日の水分量を記録しながら時に体操やマッサージを付け加えている。また、コーヒー。紅茶などの嗜好品に加え牛乳や野菜ジュース類なども提供している。		

【千葉県】グループホーム おたがいさま

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の有無を確認しながら希望に応じて入浴していただいている。時に好みに合わせて入浴剤を選んでいただくなど楽しくゆったりとした気分を演出入浴表を作り、入る順番に配慮している	入浴においては、毎日実施しており、希望により時間・回数等、柔軟に対応している。リフト浴が導入されており、入居者の身体状況に合わせた入浴が可能となっている。必要に応じて清拭・シャワー浴・部分浴等を実施し、入居者の清潔保持に努めている。入浴拒否においては、言葉掛けやタイミングを工夫する等、一人ひとりに配慮した入浴支援を行っている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その人の睡眠スタイル(布団又はベット)に配慮し十分な睡眠がとれるよう配慮している		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	配薬表があり職員が(既往歴現病等)わかるようになっている。血圧の薬を飲んでいる方には、特に注意するように心がけている		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの考え方(趣味嗜好)を尊重している。生け花・信仰など個々の生活空間がある。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	思い思いの考えを実現するためその時の入居者の気持ちを尊重している。広告をみて買い物に行きたい散歩がしたい等日常的な事柄から、家族に協力を得て遠方へ外出する等事柄に応じて対応している	入居者の希望・体調・天候に応じて、散歩・買い物・ドライブ等の外出支援を行っている。定期的に入居者の習慣・希望・身体状況・季節等を考慮しながら外出行事を企画・実施し、外出が楽しめるよう支援している。外出が困難な入居者には家族を交えたり、職員が個別に外出支援を行なう等、工夫していると共に、職員が容易に外出支援を行える様に人員配置にも配慮している。	

【千葉県】グループホーム おたがいさま

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭トラブル予防のため現在預り金が行っていないが、立替金として利用料の請求書に本人が買い物に行ったときに購入した物品等の領収書を添付し請求している。買い物の制限はしていない。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や知人から電話連絡や手紙などをもらったり返事を書いている。家族の声を聞いて安心する入居者もいる。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の作品の展示や共有場所の整理整頓を心がけている。生け花などは入居者が行ってくれる	施設は2階建てとなっており、身体状況に応じて生活のスペースを配慮している。各階のリビングにはソファーやテーブルが配置されており、入居者がくつろげるように配慮している。2階の階段には昇降リフトが設置され、身体状況に合せた生活環境の整備に取り組んでいる。階段スペースに入居者の作品等が展示されており、居心地の良い空間となっている。	施設への階段に昇降リフトが設置されており、入居者の身体状況に配慮した設備が備えられているが、一時的に荷物を階段の上り口に保管しており、入居者の安全や緊急避難経路の確保等の点を考慮すると不適切である。今後は、様々なリスクを念頭に置き、再検討し、荷物の一時保管場所の移動・入居者の安全確保に努めて頂く事を期待します。
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個々の部屋で思い思いに過ごす時もあればおしゃべりできる共有の場へ出てきて過ごしている。居心地がよい場所を提供できるように職員配慮している。職員も一緒にお茶を飲みながら毎日過ごす		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	部屋は、自宅で使っていたものを等しい入れのあるものを置いていただくように家族にお願いしている。(写真など)食器類など個々に異なった食器を使用	入居者の希望に応じて、馴染みの物を持ち込むことが可能になっており、居心地良く生活できるよう配慮している。ベッドの使用や畳等、本人の好みや生活歴に合せた居室作りがなされている。全居室にエアコンが設置され、適切な空調管理がなされている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	段差解消。トイレなどに手すりは設置している。残存能力を維持活用できるように可能な限り見守りを行っている。		